

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

第5回国際保健医療行動科学会議（報告） 「健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育 - 」を終えて

大会実行委員長 谷口文章

2006年8月17日～20日に、第5回国際保健医療行動科学会議が開催され、「健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育」（於：タイ・バンコク/プラナコン＝ラジャバト大学）をテーマとし、記念講演、基調講演、シンポジウム、サテライトシンポジウム、ワークショップ、研究発表、ポスター発表、エクスカージョンが実施されました。本会議では、日本、タイ、マレーシア、ネパール、カナダより先駆的な研究者、教育者、実践家、NGO/NPO等の市民活動家、行政担当者が参加し、自然・社会・人文科学の統合的な「知」の観点から議論が展開されました。

第一日目（17日）は、日本から51名の参加者があったエクスカージョンでは、ピハーラ Wat Phabaat Naampu（HIV感染による終末期患者のための仏教系医療施設）を訪問しました。タイにおけるHIVとその対応についての概要や、ターミナルケアによる“癒し”の問題などについて、講演を聴くとともに、施設内を見学しました。スピリチュアルな領域である魂や宗教の問題、また日本とタイにおける文化差などについて一同深く考えさせられる視察となりました。その後、アユタヤ遺跡を見学し、チャオプラヤ川の船上にてタイのディナーを楽しみました。



ピハーラ

第二日目は（18日）は、記念講演「新しいパラダイムとしての統合医療 - 未来のヘルスケア・システムに向けて -」（渥美和彦氏/東京大学名誉教授）、「健康であるために - カナダ・ファーストネーションの伝統医療・健康とウェル・ビーイング -」（Nancy TURNER氏/カナダヴィクトリア大学教授）が行なわれました。午後から研究発表、口頭発表・保健医療セッション11演題、環境教育セッション12演題があり、熱心な討議がなされました。また会議前日を通して、会議フロアでポスター発表が実施され、保健医療セッション7演題、環境教育セッション3演題が展示されました。またプラナコン大学あげてのウェルカム・パーティーでは、タイの



渥美和彦氏（東京大学名誉教授）

伝統舞踊ショーと伝統食が出され、参加者全員が大いに感激する中、国際的な文化交流を楽しみました。

第三日目（19日）は、基調講演「統合保健医療における依存と自律 - 行動変容のためのスキーマ -」（宗像恒次 / 大会長・筑波大学教授）、「統合医療と総合的な環境教育にかんする倫理教育の展望」（谷口）が行なわれた後、シンポジウム「健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と総合的な環境教育の視点から -」が催され、各ゲストスピーカーより統合医療とヘルスケアシステム、生命倫理、学校教育における危機介入、人材育成、伝統・文化、生物多様性、知的財産権などをキーワードとし、それぞれの研究の立場から具体的な教育のアプローチが示され、有意義な議論が交わされました。またサテライト・シンポジウムでは「行動変容についての実践的研究」「環境教育教材の共有化をめざして」をテーマにし、専門的な立場から実践に即した議論が交わされました。

第四日目は（20日）は、サテライト・シンポジウム「当事者参加のヘルスプロモーション」「e-ラーニングによるタイ・日本との環境教育の情報交流」が行なわれ、具体的な教育の方法論について討議が行なわれました。ワークショップの「民間療法とタイ・マッサージ」「ネイチャートレイルの開発のための環境教育活動」では、タイにおけるオリジナリティを活かしたテーマが取り上げられました。またフェアウェルパーティーでは49名の参加があり、和やかにしめくられ幕を閉じました。

全日を通して412名にのぼる人々が参加し、盛況裡に終えることができました。日本からご参加いただきました会員の皆様、また実行委員の先生方の御協力に深く御礼申し上げます。また、献身的に会場の準備など運営に携わっていただきました、プラナコーン＝ラジャバト大学学長及び環境教育センターの先生方、スタッフの皆様、とくに現地にて種々のセッティングを賜りました実行委員の仲座良造氏には心より感謝申し上げます。



伝統舞踊ショー



宗像恒次氏（大会長）



谷口文章（大会実行委員長）



会場の様子（右：Nancy TURNER氏 / カナダウィクトリア大学教授）



サテライト・シンポジウム

実践報告

甲南大学谷口研究室第69回ゼミナール海外研修旅行(タイ)を終えて

(2006年8月14~24日@タイ・バンコク/クイブリ自然公園)

日本文化、そして自分について新しい発見のあった10日間

臼井絵理奈(甲南大学3年生)

8月14日~23日までタイに滞在し、バンコクで17~20日に開催された第五回国際保健医療行動科学会議(谷口文章先生/大会実行委員長)に、その後エコ・ツアーに参加させていただきました。そして、この会議のお手伝いをさせていただいたことで、大きく分けて3つの事を学んだと思います。それは、1つのことをするのに、何倍もの下準備がいる事。年配の方、普段接することがない方との出会い。最後まで推敲を続けより良い物を目指すことです。

まず、会議のために何ヶ月も前から、会議の内容以外にも、宿泊施設、エクスカーションなど、参加される方が不自由なく過ごせるように、見えないご苦労があったと思いました。現地に着いて、ホテルに宿泊できること、エクスカーションの移動で使うバスの手配、パンフレット、ポスターなど、当たり前のように利用していたものの背景に、先のことを見据えた下準備があったことに気づきました。また、会議が始まった後も参加者の方が困られないように、張り紙を作成されたり、名札にそれぞれに意味のある色のしるしを付けたものに作り変えるなど、臨機応変な対応の必要性を感じました。多くの人を動かすためには、合理的に最初の段階から最後のことを考えることが重要なのだと思いました。

また、今回多くの先生方とお会いすることができました。渥美和彦先生(東京大学名誉教授、日本統合医療学会・理事長)や、谷荘吉先生(小松病院・名誉院長)、宗像恒次先生(日本保健医療行動科学会・会長)など、私たち学生とも気さくにお話して下さりとても光栄でした。しかし、私たちの行動や言葉遣いに多々、失礼なことがあったと思います。このことで、普段からの習慣を見直さないといけないと感じました。

そして、私たちも学生会議に力不足ながら参加させていただきました。前日まで資料が完成せず最後の一踏ん張りの大切さを痛感しました。今回私たちのために場を設けていただいたこと、発表させていただいたこと、谷口先生や渡辺愛理さんにご指導していたこと、自分たちのことで精一杯で、いろんな方に甘えていたと思います。物事に終わりはなく最後の最後まで粘り、よいものに仕上げていくことはしんどい事ですが、そこでどれだけ粘れたかが後の達成感の大きさに変わるのだと思いました。

この滞在期間、私は記録係として写真を撮影していました。今まではほとんど人物しか撮影したことがなく、公式な場で使用できる写真、記録として残す意味がある写真をとるには多くのコツがありました。最初はどの場面が重要なのか、記録と

してどの場面が必要なのか、日本に帰って何に使用するのかを考えながら撮影しました。この時に発表原稿のパワーポイントの写真を参考にしたり、天野さんが撮影されている場面は撮影するようにしました。徐々に良いアングルや、シャッターを押すタイミングをつかみ楽しみながら撮影していました。写真をとるといふ行為から、次に何が起こるかを想定し、先回りしたり、動植物を同じ目線に立ってみるなど、新しい視線に立つことができたと思います。またレンズを通した世界に感動したこと、気持ちを載せるのは難しく、そこにこだわりが生まれたと思います。

また、タイと日本の文化の違いを大きく感じました。同じアジアの国ですが、出会う人、出会う人が私たちに挨拶をして下さり、親切な方ばかりでした。時間の流れもゆっくりしていて、私たち日本人がせかせかと時間ばかり気にして見えてない、大事なところを大切にされているように感じました。

クイブリ国立公園では、大自然の中で体の中が一掃されたように感じました。野生のゾウに出会えたとき、完熟のパイナップルを食べた感動は一生の宝物だと思います。私は小さなころから空を見るのが大好きでした。クイブリ国立公園でみた天の川、青空は本当にきれいでした。

エクスカージョンで行ったビハーラでは、エイズの実態に触れました。私は国際理解の授業でタイでのエイズ問題について学んでいました。タイに観光に来た日本人が昼間から売春をしている事実があること、展示されているミイラの横にあった説明にセックスワーカーという表記が多かったことから、私たちの考えている以上にタイでのエイズ問題が深刻であり、日本も他人事でないことを感じました。多くのミイラが展示されていましたが、それらから目を背けずに、メッセージを受けとることが重要だと思いました。

普通の旅行では経験できないことをたくさん体験できた内容の濃い10日間でした。そして勉強不足を痛感した日々でした。今回タイに行ったことでその場で感動を胸に刻み、帰ってきて振り返ることで初めて理解できることがあること、全く関係の無いこととのつながりがあることに気づきました。



学生会議での発表



エコツアー



完熟のパイナップル



野生の象

実践報告

甲南大学谷口研究室第71回ゼミナール海外研修旅行（中国）を終えて

（2007年3月8～11日@中国・北京）

今回の北京大学との学生交流を通じて、大学院生の熱心な修学への姿勢や充実した校内の環境に感心しました。特に図書館の蔵書の多さ、また先進的な博物館を学内に完備するなど、中国の最高学府と呼ばれる北京大学に、中国の勢いを感じました。今後の北京大学との交流を通じては、日中のTV会議システムを使ったe-Learning授業だけではなく、じかに北京大学の教授の方々の講義やお話を聞く機会にも恵まれればと思います。（4回生 / 清水）



北京大学図書館

今回の中国研修旅行で初めて中国を訪れたが、自分が想像していた以上の経済成長の様子に驚いた。高層ビルの多さ、建設中の建物の多さ、自動車の多さ、どれも経済成長のスピードを表すものとして目に映った。それでもメインストリートから一步はずれると、全く違った景色が広がっており、経済格差が伺い知れた。



北京大学考古博物館内

北京の空気は排気ガスによってか、チリが舞っている感じがしており、大気汚染が進行しているように感じられた。おそらく自分が思っている以上のスピードで環境汚染が進行しているのであろう。他方で、北京市内には電気を電線から供給されながら走る路線バスも走っており、全く環境に対してなにも講じていないわけでないことを知ることができた。インフラ整備中とあって、日本とは違ってある意味で、環境に配慮した都市計画を進めることのしやすさがあるのかもしれない。それでもなお自動車の排気ガスの多さは問題視すべきものであろう。環境整備における環境改善と共に、個人の環境意識の改善および向上の必要である。



建設ラッシュの北京市内

文化遺産として、天安門広場、故宮、万里の長城の観光を行なったが、日本との文化のスケールの違い、特に大陸と島国の文化背景、歴史形成の違いを肌で感じる事ができた。



故宮：乾清宮

今回の研修旅行は、国際化を考えるよい機会となり、またそれを実感できる旅行であった。（M2 / 田畑）

日本の環境教育は、公害教育から出発していると一般にいわれますが、日本環境教育学会の設立当初（1990年代）、環境教育といえば、理科教育や自然科学が主流とされてきました。近年、“持続可能な開発のための教育”の動向とともに、社会科学や人文科学の領域においても環境教育が評価され、総合的に学ぶことが求められています。

今後北京大学との交流においても、両国の環境や社会・経済状況をふまえながら、環境教育の動向やその教育方法・内容・評価などを統合的に学べるようなフィールドが確立していくことを強く望みます。私は1999年に開催された日中環境教育情報交流協会設立シンポジウムにも参加したのですが、両国の環境教育のツールや環境情報のコンテンツなどをより深く共有化できれば、両国の環境教育の推進にも大きく反映されていくのではないかと期待しています。（研究生/渡辺）



会議後の記念撮影
（北京大学の教員とともに）

国際シンポジウム&ワークショップ

「環境倫理にもとづいた環境教育の国際ガイドラインの構築に向けて（ ）」のご案内

（マレーシア・クアラルンプール 主催：マラヤ大学 共催：アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）/甲南大学環境総合研究所）

甲南大学環境総合研究所所長・「地球環境と世界市民」国際協会会長
谷口文章

「環境倫理にもとづいた環境教育の国際ガイドラインの構築に向けて」をテーマに、地球変動研究に関する自然科学の知見のみならず、社会科学や人文科学などの統合的な「知」の観点から本シンポジウムを展開します。

環境教育の研究については、現在に至るまで体系化されないまま進められてきており、国際的なガイドラインが求められています。また、すべての学問領域に共通する“環境教育”は、各領域をつなぐ架け橋としても期待されていることから、本シンポジウムでは「環境倫理にもとづいた環境教育の国際ガイドラインの構築」をめざします。

第1回は、2006年1月28日（土）～30日（月）に兵庫県立美術館および甲南大学において開催され、第2回は、2006年8月19日（土）にタイ・バンコクのプラナコーンラジャバト大学において開催されました。

今回で第3回を迎えるこの国際シンポジウムは、2007年5月2日（水）～4日（金）にマレーシア・クアラルンプールのマラヤ大学において開催されることとなりました。タイムテーブルは次頁のようになっております。

なお、この国際シンポジウムおよびワークショップは、APN（アジア太平洋地球変動研究ネットワーク）のCAPaBLEプロジェクト「環境倫理と地球変動研究に関する環境教育ガイドラインにかんする研究」の一環です。

P R O G R A M M E

Day 1 - Wednesday, 2 May 2007

08:00 - 09:00 Registration

09:00 - 09:30 Welcome speech

Speech by YBhg. Professor Dato' Dr. Mohd. Amin Jalaluddin, Deputy Vice Chancellor (Academic Affairs & Internalization), University of Malaya

Speech and Opening by YBhg. Datuk Hajah Rosnani Ibarahim, Director General, Department of Environment, Malaysia.

09:30 - 10:30 Keynote Address I:

Professor Fumiaki Taniguchi, Konan University, JAPAN "*Orientation of the Framework for Guidelines of Environmental Education based on Practice of Environmental Education*"

10:30 - 10:45 Tea Break

10:45 - 12:45 [Session I]

Model Programme for Environmental Education: Perspective of Various Cultures

Moderator: Professor Dr. Fumiaki Taniguchi (Japan)

Panelists:

Prof. Freya Matthews (Australia) / Dr. Rajib Shaw (Japan) / Dr. Siritwat Soondarotok (Thailand) / Mrs. Angela Hijjaz

12:45 - 14:15 Lunch

14:15 - 16:15 [Session II] - Continued

Model Programme for Environmental Education: Perspective of Various Cultures

Moderator: Professor Dr. Gloria Snively (Canada)

Panelists: Dr. Subramaniam Moten (Malaysia) / Prof. Bai Yuhua (China) / Dr. Chinatart Nagashinha (Thailand)

16:15 - 16:30 Tea Break

16:30 - 18:00 [Session III] Case Studies of Implementation Environmental Educational in the Asia Pacific Region

Moderator: Professor Siritwat Soondarotok (Thailand)

Panelists: Professor Dr. Khairulmaini Osman Salleh (UM) / Prof. Jariya Boonjawat (Thailand) / Prof. Tian Dexiang (China)

Panel Discussion

18:00 - 18:30 Summary

20:00 - 22:00 Dinner & Cultural Show at Eighth Residential College

Day 2 - Thursday, 3 May 2007

09:00 - 11:00 [Session IV]

Analyses of Case Studies on Implementation of Environmental Education in the Asia-Pacific Region

Moderator: Professor Dr. Azizan Baharuddin (UM)

Panelists: Dr. Chinatart Nagashinha (Thailand) / Prof. Dr. Alastair Gunn (New Zealand) / Prof. Gloria Snively (Canada) / Mr. Mohd. Fadzil Mohd. Jaafar (Ministry of Education Malaysia)

11:00 - 11:15 Tea Break

11:15 - 13:30 [Session V] Workshop and Summary / Closing

14:30 - 18:00 (Session VI) - DRAFTING COMMITTEE - The Skeleton of Guidelines of Environmental Education

DAY 3 - Friday, 4 MAY 2007

09:00 - 14:00 (Research Trip to Kuang & Taman Alam)

ネットワーク掲示板

日本保健医療行動科学会認定健康行動科学士資格研修会

日時：2007年6月2日(土)、3日(日) 場所：甲南大学(春季・近畿地区)

6月2日(土)

6月3日(日)

9:00- 9:20 受付・開会の辞

9:00- 9:20 事務連絡

9:20-12:30 評価尺度作成法実習

9:20-12:30 箱庭療法

12:30-13:40 昼食

12:30-13:40 昼食

13:40-15:10 臨床発達心理学入門

13:40-16:50 わかる質的研究法(「ナティ」分析)

15:20-16:50 脳と心の生理学

17:00-18:30 医療経済学入門

17:00-18:30 死生学とターミナルケア (13:40-14:40に認定試験も行ないます。)

当日の講義時間帯や会場については、日本保健医療行動科学会のホームページ(<http://homepage1.nifty.com/jahbs/>)で随時ご確認下さい。

問合先：認定健康行動科学士資格研修会事務局(近畿地区)

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部谷口研究室気付

Tel/Fax : 078-435-2368 E-mail : fumiaki@konan-u.ac.jp

事務局だより

本協会では、環境教育に関する国際ネットワーク化の促進ならびに国際的ガイドラインの構築を推進しております。国際的な情報を御提供下さいますようお願い致します。

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No. 22

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内

Tel/Fax : 078-435-2368 E-mail : fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage : http://www.rk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html